

## 動 く

森 本 眞 智 子

この世に 永遠などはないように  
すべてのものが動き始める

動くこと それは

始まりであり

終わりである

動くこと

それは誕生であり

滅びである

冬枯れの林に 風が吹き抜ける

それだけで

すべてのものが目覚め始める

閉じられていたものたちが

ゆっくり 結び目をほどく

気配のような春

わたしの中の 野生の心が動き出す

だがそれは けっして猛々しくはない

頑丈に見えるものほど

壊れやすいものだと知った日から

すべてのものが いとおしい

柚子の実が 目を閉じて落下する

成熟は 老廃につながるものかと

その重く鈍い音を

記憶の中のように聞いている

探し続けてきたものは なんだっただろう

ワツ と叫びだしたくなるものを

閉じ込めてきた冬だから

それさえも 埋もれてわからない

“わからないほうが いいことだってあるさ  
新しいもの 見つけるよ”  
遠くから やわらかく語りかける親しい声に  
わたしは素直にうなずいていた